

ノースウエスタン大学留学までの道のりとこれから

医学部3年生の時に大学の基礎研究室配属としてアメリカのミシガン大学、人工心肺の研究室で3か月、ボランティアをさせてもらう機会がありました。当時外科医になるために研究知識をつけるという目的で研究室に所属し、医学部入学をめざしている研究者の下につき、日本とのシステムの違いに驚きました。その後15年以上たち、その方は現在外科医として働いています。この経験から、医師になったら留学して本格的に研究すると心に決めました。

帰国後は部活に専念し、臨床実習を終え、なんとか卒試と国試を通過し研修医から耳鼻咽喉科へと進み、楽しく忙しく過ごしている間にあんなに高かった研究留学へのモチベーションは消えかけていました。そんな時に現在の上司である国際医療福祉大学の岡野光博先生のもとで臨床に加えて大学院生として研究指導してもらえる機会をいただきました。知識も技術もない状態からなんとか研究者っぽく論文作成や学会発表ができるようになり、ちょうどパンデミックが落ち着いたこともあり、ついにノースウエスタン大学のアレルギー免疫学に留学する機会をいただきました。慢性副鼻腔炎の組織を用いたバルクRNA解析や、抗体薬の作用機序についての研究で、実験もありますがデータ解析が中心となっています。



←シカゴは昼も良いですが、夜景がきれいです。

Northwestern University
Feinberg School of Medicine

岡 愛子

国際医療福祉大学医学部耳鼻咽喉科

渡米直後は身分証明書をとりたりマンションや電気の契約、銀行口座の開設など生きた英語が必要となりますが、臨床医として充実した生活にかまけて英語の勉強をおろそかにしていたことを後悔しました。心を入れ替え、実験や解析をしていない時間はできるだけ英語の勉強に充てることとしました。

ノースウエスタン大学は毎日と言っても良いほどどこかでセミナーや講演が開催されており、アレルギー免疫分野はもちろん癌分野、分子生物学や統計学など自身が所属していない部署の主催でも参加可能なものが多くあります。英語のリスニング向上のためだけでなく研究に生かせる知識が得られ、例えば統計セミナーを一通り聞くと、公開データを用いてR言語でのシングルセル解析ができるようになりました。また隣接する研究室に所属するインドや中国、台湾、ナイジェリア、ドイツ、カナダ、レバノンなどからの留学生と話せば、学校で習うことのない普段使いの言葉を学ぶことができます。ニュースからは英語だけでなく戦争、差別など日本であまり馴染みのない放送内容に考えさせられます。

私は夫を日本に残して留学しましたが、私が楽しく充実した生活しているのを見た夫も希望を出し来年から海外赴任となりました。これに伴い私も研究継続のため進路を検討しています。家族にまで良い連鎖を生む留学という機会をご支援いただいた上原記念生命科学財団の皆様にご心より感謝いたします。

学びと出会い

私は2022年10月より、アメリカ・シカゴにあるNorthwestern Universityに留学しております。

日本では膠原病内科医として臨床に従事した後、大学院に進学し、臨床研究および免疫異常を背景とする肺高血圧症の基礎研究を行ってきました。膠原病の一つである強皮症に合併する肺高血圧症には、いまだ確立された治療法がなく、循環器内科および膠原病内科におけるアンメットニーズとなっております。この難治性疾患の病態解明を目指し、世界最大の強皮症コホートを有するNorthwestern UniversityのCardiologyへの留学を決意いたしました。本学では、強皮症に特化した専門外来が設置されており、各科の強皮症専門医がチームを組んで連携しながら診療にあたっています。私もCardiologyをはじめとする各診療科と連携しながら、強皮症患者さんをリクルートし、私のPIであるSanjiv Shah教授の強みである「心血管障害の早期発見を可能にする運動負荷心エコー」を組み込んだトランスレーショナル研究に取り組んでいます。研究に参加してくださる強皮症患者さんから、研究への期待や励ましのお言葉をいただくことも多く、日々非常に大きなやりがいを感じております。



←19階の自宅アパートから見えるシカゴの夜景

Northwestern University
Feinberg School of Medicine

夜久 愛

京都大学医学部免疫・膠原病内科

また、Rheumatologyチームのご協力のもと、強皮症外来の見学もさせていただき、診療面でも学びを深めることができました。帰国後は、この経験を活かし、強皮症診療と研究のさらなる発展に貢献していきたいと考えております。

シカゴはアメリカ第3の都市であり、非常に都会的な街です。Northwestern University/Hospitalはダウントウンに位置し、周囲には超高層ビルやブティック、ホテルが立ち並ぶ治安の良いエリアにあります。公共交通機関も整備されているため、車を持たずに生活することが可能であり、私は現在、アパートの19階に住み、車を持たない生活を送っております。

留学前は大学院での研究と二人の子どもの育児に追われ、日々を波に流されるように過ごしていましたが、留学を機に一息つき、人生を見つめ直す貴重な時間を得ることができたことも非常にありがたく感じております。また、シカゴで出会うことができた方々とのご縁にも心から感謝しております。PIのSanjiv Shah教授は、一流の研究者であると同時に人格者でもあられ、「既にある研究の模倣ではなく、0から1を生み出すようなオリジナリティのある研究を行うこと」の大切さを教えていただきました。

私の研究に参加してくださった方の一人が、ボランティアで自分の英会話の先生になってくれたり、子どもたちの学校で知り合った保護者の方々とは国籍を問わず助け合い、アメリカ・インド・イタリアなど多様なバックグラウンドを持つ方々と日々刺激を受けながら交流しています。また、シカゴで出会った日本人の方々とは家族ぐるみの深いお付き合いをさせていただいており、留学生活で得た最も大切な宝は「人とのつながり」であると、日々実感しております。